



教育学部

4回生 しみず 里佳



韓国人の友達と過ごす休み時間(真ん中)

韓国留学からの学び

自分の五感をフルに

海の向こうには、自分のすべてをゆさぶるものがある!異文化に対して強い関心をもちながらも、長期留学をすることで卒業が遅れてしまう焦りがあった。しかし、異文化の中で学べる全てのことは、かえがえのない経験であり、教師として子どもたちの前に立った時にも生かせるはずだという思いが留学を後押ししてくれた。

留学先に韓国を希望したのは、自分の目で見て、耳で聞いて、心で感じたいことがあったから。テレビを通して韓国と日本の政治的な関係が良くないことを知り、インターネットでは歴史的な問題に関して中傷的なことがかかっているものを目にした。韓国とは?韓国人とは?情報を鵜呑みにすることだけはしたくないとそう思った。

韓国人との時間

寮のルームメイトは韓国人。日本語を熱心に勉強しており、一緒の空間で過ごすうちに勉強を教えあい、自分の夢や恋愛、悩みまでお互いに打ち明け、時には夜通し語り合うこともあった。深い信頼関係を築けて初めて、私はずっと気になっていた歴史に関することや外交関係について尋ねることができ、そのことについてもお互いの意見や思いを何度も話し合った。メディアを通してではなく、自分の耳を通して聞いた言葉はとても印象的で、韓国人の視点はどのようなものかを少なからず知ることができたように思う。気力のいることだったが、戦争や教育、文化について改めて考える本当に貴重な時間を過ごすことができた。

また、多くの出会いの中で感じたことは、韓国人は感情や気持ちをはっきりと伝える人が多いということだった。このことを感じてから、周りにあわせてしまいがちだった自分の気持ちを伝える努力をした。協調性は大切だが、自分の気持ちを大切に扱い、丁寧に伝えることも人間関係や自分自身により良い影響を与えてくれることを実感した。



チマチョゴリ試着体験(真ん中)

「日本人」というアイデンティティー

留学生活では、さまざまな文化と出会いたかったため、韓国人だけでなく世界各国からきた留学生とも、毎日交流をしていた。この日々は、私が「日本人」であることを強く意識させた。私が「日本人」であるがゆえに、日本に関する質問をされることが度々あったが、経済や制度、外交問題など自信を持って答えられず、自国に対していかに自分が無知で、無関心であるかを知った。このことが、初めて日本を相対的に捉え、見つめ直し、考え始めるという、自分の中で非常に大きな変化が起こった。様々な国籍の人たちと触れ合う異文化交流は異文化を理解することだけでなく自国を改めて見つめなおす重要な機会でもあると身をもって感じた。



国際色豊かな韓国語の授業メンバー(右下から2人目)

改めて、教師をめざす

書ききれないほどの楽しく、また苦い経験や思い出と試行錯誤を繰り返したこの留学生活を通して、私は中学校の英語の教員を目指すことを決めた。留学前は国語の免許を取得する予定だったが、英語をツールとして、多くの人や異文化と出会い、好奇心をもって、可能性や視野を広げていってほしいと、子どもたちに強く伝えたいと思うようになったからだ。残りの大学一年間は、ゼミだけでなく、新しく学ぶ英語教育や異文化理解にむけて、充実した一年にしていきたい。

最後になりましたが、留学を決心し無事に終えることができたのは、先生方、国際センターの方、両親、友人、たくさんの方々の温かい応援や支援のおかげです。本当にありがとうございました。